

令和5年度 長井市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和6年5月

長井市（山形県）

○計画期間:令和3年4月～令和8年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和5年度終了時点(令和6年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市では、令和3年4月以降、認定基本計画に基づき「時代（とき）・エリア・人をつなぐ」をテーマに、第1期計画の検証を踏まえ、「快適・安全で市民や観光客が集まる魅力あるまちづくり」、「人が集い、回遊したくなる魅力を生む仕組みづくり」、「まちづくりを支える人材の育成及び商業活動の活性化による賑わいづくり」の3つの基本方針のもと、75事業を推進することで中心市街地の活性化に取り組んでいる。

結果として13事業が完了し、60事業が着手・実施中、2事業が未実施となった。

令和5年8月に多機能型図書館と子育て支援機能を併せ持つ、遊びと学びの交流施設「くるんと」がオープンし、子育て世代はもちろん、幅広い世代の市民生活の向上が図られた。また、県内外を問わず多くの方にご利用いただき、令和5年度の来館者は約25万人となった。施設の外では遊具や噴水で遊ぶ子ども達の姿が見られるようになり、賑わいの創出に繋がっている。

平成23年度より実施していた都市計画道路桐町成田線の街路整備が令和6年3月に完了し、安全で歩きたくなる歩行空間の形成が図られた。秋には本街路を活用し、官民連携してイベントを実施しており多くの方にご来場いただいた。

中心市街地全体としてみると、山形鉄道フラワー長井線長井駅の駅舎と一体となった新庁舎への市役所移転や、やまがたアルカディア観光局による誘客事業、白つつじまつりや黒獅子まつりなどのイベントの実施等により、市民の利便性の向上や来街者の増加による賑わいの創出が図られた。また、遊びと学びの交流施設「くるんと」のオープンにより、一部で客足が伸びている施設や店舗も見受けられる。

今後は、官民連携したイベントの実施や空き店舗の活用など恒常的なにぎわいの創出に向けた取り組みを実施するとともに、くるんとをはじめとした集客施設の利用者をまちなかに留める仕組み等を検討する必要がある。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	令和2年度 (計画前年度)	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)	令和6年度 (4年目)	令和7年度 (5年目)
人口	3,817	3,626	3,533	3,464		
人口増減数	△64	△191	△93	△69		
自然増減数	△20	△28	△33	△49		

社会増減数	△44	△163	△60	△20		
転入者数	217	120	110	131		

(2) 地価

(単位：円/㎡)

(中心市街地 区域)	令和2年度 (計画前年度)	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)	令和6年度 (4年目)	令和7年度 (5年目)
東町 10-14	19,200	19,000	18,900	18,800		

2. 令和5年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

公共複合施設整備事業の完了により、遊びと学びの交流施設「くるんと」がオープンし賑わいの創出に繋がった結果、認定基本計画の目標である「都市機能の充実」において「各施設利用者数」の目標が達成された。また「まちなかの回遊機能の向上」においては「歩行者・自転車等通行量」が基準値に及ばなかったものの、昨年より増加している。同様に「賑わいの創出」においても「空き地・空き店舗解消数」が前年度より高い数値となった。各目標の見通しとしては、徐々に経済活動が活発になっていることに加え、今後予定されている事業の実施により目標達成が見込まれることから、概ね順調と評価する。

取り組みの課題として、公共複合施設の利用者をまちなかに促す方策が重要であるが、歩いてみたくなる道路や景観づくりなど、エリアを面で捉える考え方を基にした事業展開が必要であり、また一層の魅力づくりと積極的な情報発信が不可欠である。

今後は特に、くるんとからの回遊性を高めるため、歩行者にとって快適な店づくりや景観づくりの取り組みを支援いただきたい。さらに、来館者のヒアリング調査の実施や交通機関の乗降データ等の検証を行い、その分析結果を基にブラッシュアップを図ることで、認定基本計画に掲げる諸事業がより効果的に実施されることを期待するものである。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
都市機能の充実	各施設利用者数（人/年）	128,756 人 (R1)	201,700 人 (R7)	310,684 人 (R5)	A	1	①
まちなかの回遊機能の向上	歩行者・自転車等通行量（平日・休日の合計）	2,125 人 (R1)	2,300 人 (R7)	1,585 人 (R5)	C	1	①
賑わいの創出	空き地・空き店舗解消数（件）	— (R1)	25 件 (R7)	10 件 (R3～R5)	C	1	①

< 基準値からの改善状況 >

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 >

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ 1、2 とする。

2. 目標達成見通しの理由

「各施設利用者数」については、遊びと学びの交流施設「くるんと」（公共複合施設整備事業）のオープンにより目標を達成することができた。くるんと以外の施設についても利用者が増加傾向であることから、次年度以降も引き続き目標達成が見込まれる。

「歩行者・自転車等通行量」については、市庁舎移転の影響やコロナ禍による減少から戻りきれないことなどから基準値に及ばなかったが、各事業の実施により昨年に比べ増加している。中心市街地での出店の動きが活発になってきており、引き続き、ソフト事業を実施することで目標達成が見込まれる。

「空き地・空き店舗解消数」については、令和 5 年度に 5 件（令和 3 年度からの合計で 13 件）の空き地・空き店舗解消を見込んでいたが、コロナ禍の影響における創業控えなどより実績は 3 件となり、見込んでいた数値に及ばなかった。ただし、徐々に経済活動が活発になっていることに加え、公共複合施設整備事業や都市計画道路桐町成田線整備事業の効果もあり新規出店や土地の活用が促され目標達成が見込まれる。

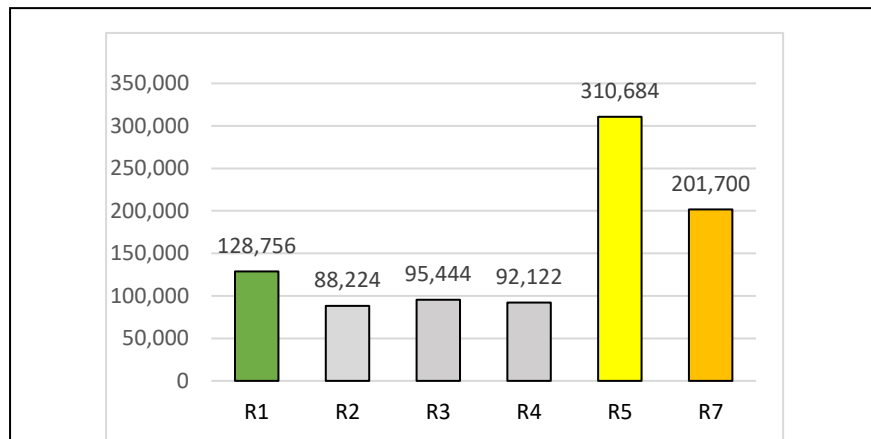
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更はない

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「各施設利用者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 63～P. 66 参照

●調査結果と分析



年	(人)
R1	128,756 (基準年値)
R2	88,224
R3	95,444
R4	92,122
R5	310,684
R7	201,700 (目標値)

※調査方法： 図書館、子育て支援施設、文教の杜、旧長井小学校第一校舎、けん玉広場
スパイクの利用者数を集計

※調査月： 令和5年4月～令和6年3月

※調査主体： 長井市

※調査対象： 各施設利用者



(単位：人)

	令和2年度 (計画前年度)	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)	令和6年度 (4年目)	令和7年度 (5年目)
図書館	18,914	23,520	21,548	113,176		
子育て支援施設	2,125	2,450	2,203	111,662		
文教の杜	3,526	5,049	5,475	6,880		

旧長井小学校第一校舎	62,152	62,595	60,027	75,247		
けん玉広場スパイク	1,507	1,830	2,869	3,719		
合計	88,224	95,444	92,122	310,684		

〈分析内容〉

各施設利用者数の増加に向けた主要事業については、概ね予定どおりに完了した。

結果として、後述する公共複合施設整備事業の完了により目標値を大きく上回ることとなった。施設ごとにみると、コロナによるインバウンド客や団体バス旅行客の減少の影響を受けている文教の杜以外は目標値を達成することができており、各ソフト事業の実施による効果と考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 公共複合施設整備事業（長井市）

事業実施期間	令和2年度～令和5年度【済】
事業概要	多機能型図書館機能と子育て支援機能を併せ持つ複合施設を整備し、市民生活の向上や賑わいの創出を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（都市再生整備計画（長井駅前地区））（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：（図書館機能分）26,207人 （子育て支援機能分）44,483人 最新値：（図書館機能分）113,176人 （子育て支援機能分）110,944人 令和5年8月にプレオープン、9月にグランドオープンし、市内の方のほか市外からの利用者が想定以上に多く大幅な増加となった。施設全体の来館者数（R5.8.11～R6.3.31）は約25万人となった。
事業の今後について	当施設の利用者がまちなかに回遊するよう、市内事業者とも連携し、継続的な賑わいの創出に向けたソフト面での取り組みを実施していく。

②. 市庁舎・長井駅移転事業（長井市）

事業実施期間	令和2年度～令和3年度【済】
事業概要	令和2年度完成の新庁舎と長井駅の合築した建物へ市役所を移転するもので、分散していた役所機能を集約し市民の利便性の向上や賑わい創出を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：1,040人増加 令和3年3月竣工、5月6日開庁。本事業目標値の設定にあたっては、フラワー長井線の乗降者増加見込みにより算出している。1日あたりの長井駅乗車人員は旅行代理店を経由した利用が増加した

	ことにより令和５年度（２月末時点）は２１４人と令和４年度の２００人から増加している。一方、新型コロナウイルス感染症の流行前の令和元年度（２４６人）までは回復していない。
事業の今後について	市庁舎市民交流スペースを活用した取り組みを実施することで、来庁者を増やし、駅周辺の回遊性を高めるための交流拠点のひとつとしての役割を担っていく。

③. 観光ボランティアガイド事業（長井市）

事業実施期間	平成２８年度～【実施中】
事業概要	ながい黒獅子の里案内人による観光ボランティアガイドを行うもので、市内のイベント期間のみならず、観光でまちを訪れた方にまち歩きをしながら長井の魅力を伝えるもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：８５０人増加 令和５年度のまちなか歩きの案内実績は１，０６１人と令和元年度実績の２，３０６人を下回る結果であった。新型コロナウイルス感染症の影響により、バスによる団体旅行が減っており、回復していない。
事業の今後について	個人旅行でのまち歩き観光は復調を見せている。まちなかの滞在時間が延び、回遊性が生まれるよう事業を継続・拡大し実施していく。

④. 地域連携DMO事業（長井市、やまがたアルカディア観光局）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	長井市・南陽市・白鷹町・飯豊町・小国町の２市３町の地域の観光地域づくりを推進するため、滞在交流型観光等を企画・運営し、広く地域の魅力を発信するもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～令和５年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：４３６人増加 令和５年度の中心市街地に立ち寄る滞在交流型旅行商品の参加人数は４８１人（催行数４４回）と、昨年度の実績（２０４人（催行数１６回））を上回る結果となった。基準となる令和元年度実績５３３人（催行数３２回）と比較すると催行数は増加している。くるとや重要文化的景観の街並みを生かした旅行商品等の造成によるものである。
事業の今後について	回復をみせているインバウンド需要、国内観光にむけて情報発信の強化を図る。また、SDGs 教育旅行プログラムにおける、まち歩きやけん玉を通したプログラムを実施するなど、まちなかの滞在時間を延ばし、域内経済活性化に寄与する事業を展開していく。

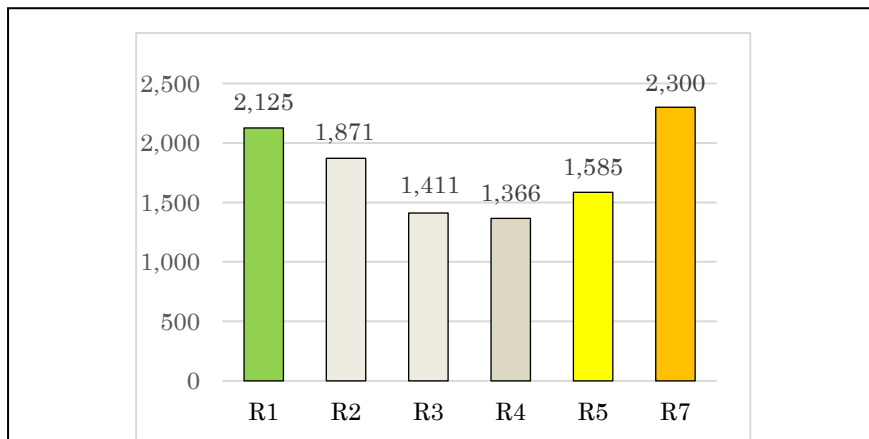
●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業のうち、ハード事業は予定どおりに完了しており、次年度以降も引き続き目標達成が見込まれる。

今後は、インバウンド需要や国内観光に向けての情報発信、公共複合施設をはじめとした各施設を活用したソフト事業を継続して実施することで、施設の利用者数を増やすとともに、生まれた賑わいを中心市街地全体に波及させる仕組みづくりを進めていきたい。

(2)「歩行者・自転車等通行量」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 67～P. 69 参照

●調査結果と分析



年	(人)
R1	2,125 (基準年値)
R2	1,871
R3	1,411
R4	1,366
R5	1,585
R7	2,300 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車等通行者、毎年9～11月の平日、休日各1日ずつ、9時～19時まで計測

※調査月：令和5年10月

※調査主体：長井市

※調査対象：中心市街地内の4地点（スパイク前、市民駐車場前、桑島記念館南側（旧東北労金前）、クロスバ前）における歩行者及び自転車等の通行量



(単位：人)

		令和2年度 (計画前年度)	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)	令和6年度 (4年目)	令和7年度 (5年目)
スパイク前	平日	162	91	178	205		
	休日	145	209	97	163		
市民駐車場前	平日	647	306	357	406		
	休日	186	284	182	174		
桑島記念館南側 (旧東北労金前)	平日	59	32	89	93		
	休日	56	83	34	60		
クロスバ前	平日	365	120	258	275		
	休日	251	286	171	209		
合計		1,871	1,411	1,366	1,585		

〈分析内容〉

歩行者・自転車等通行量の増加に向けた各事業については、概ね予定どおりに完了した。

市庁舎・長井駅移転事業や公共複合施設整備事業により、スパイク前及び桑島記念館南側の通行量が令和2年度に比べ増加した。一方、市民駐車場前やクロスバ前については市庁舎移転の影響やコロナ禍による減少から戻りきれないことなどから令和2年度に比べて減少している。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 都市計画道路桐町成田線街路整備事業（山形県）

事業実施期間	平成23年度～令和5年度【済】
事業概要	都市計画道路桐町成田線における道路拡幅、歩道整備及び無電中化を行い、歩きたくなる歩行空間を形成するもの。
国の支援措置名及び支援期間	防災・安全交付金（道路事業（街路））（国土交通省）（令和3年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：クロスバ前 82人増加（基準値：565人） クロスバ前の実績は484人であり、令和元年度実績の565人から減少した。令和5年度末に事業が完了した。
事業の今後について	整備した街路をイベントで活用するなど、ソフト面での取り組みを検討していく。

②. 観光ボランティアガイド事業（長井市）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	ながい黒獅子の里案内人による観光ボランティアガイドを行うもので、市内のイベント期間のみならず、観光でまちを訪れた方にまち歩きをしながら長井の魅力を伝えるもの。
国の支援措置名	国の支援措置なし

及び支援期間	
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：全体で5人増加 令和5年度のまちなか歩きの案内実績は1,061人と令和元年度実績の2,306人を下回る結果であった。新型コロナウイルス感染症の影響により、バスによる団体旅行が減ったことが原因である。
事業の今後について	個人旅行でのまち歩き観光は復調を見せている。まちなかの滞在時間が延び、回遊性が生まれるよう事業を継続・拡大し実施していく。

③. 地域連携DMO事業（長井市、やまがたアルカディア観光局）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	長井市・南陽市・白鷹町・飯豊町・小国町の2市3町の地域の観光地域づくりを推進するため、滞在交流型観光等を企画・運営し、広く地域の魅力を発信するもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：全体で2,4人増加 令和5年度の中心市街地に立ち寄る滞在交流型旅行商品の参加人数は481人（催行数44回）と、昨年度の実績（204人（催行数16回））を上回る結果となった。基準となる令和元年度実績（533人（催行数32回））と比較すると催行数は増加している。くるとや重要文化的景観の街並みを生かした旅行商品等の造成によるものである。
事業の今後について	回復をみせているインバウンド需要、国内観光にむけて情報発信の強化を図る。また、SDGs教育旅行プログラムにおける、まち歩きやけん玉を通したプログラムを実施するなど、まちなかの滞在時間を延ばし、域内経済活性化に寄与する事業を展開していく。

④. 公共複合施設整備事業（長井市）

事業実施期間	令和2年度～令和5年度【済】
事業概要	多機能型図書館機能と子育て支援機能を併せ持つ複合施設を整備し、市民生活の向上や賑わいの創出を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（都市再生整備計画（長井駅前地区））（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：全体で50人増加 令和5年8月のプレオープン、9月のグランドオープンし、市内の方はもちろん県内外の方からもご利用いただいている。施設全体の来館者数（R5.8.11～R6.3.31）は約25万人となった。
事業の今後について	当施設の利用者がまちなかに回遊するように、市内事業者とも連携

いて	し、継続的な賑わいの創出に向けたソフト面での取り組みを実施していく。
----	------------------------------------

⑤. 市庁舎・長井駅移転事業（長井市）

事業実施期間	令和２年度～令和３年度【済】
事業概要	令和２年度完成の新庁舎と長井駅の合築した建物へ市役所を移転するもので、分散していた役所機能を集約し市民の利便性の向上や賑わい創出を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：全体で１３０．２人増加 令和３年３月竣工、５月６日開庁。令和５年度のまちなか交流施設（建物南側の市民交流ホールや市民防災研修室、売店部分）の年間の利用者は約１１万人（１日あたり３０５人）であった。分散していた役所機能を集約したことに加え、まちなか交流施設の利用により、来庁者が増加したものと推察される。
事業の今後について	市庁舎市民交流スペースを活用した取り組みを実施することで、来庁者を増やし、駅周辺の回遊性を高めるための交流拠点のひとつとしての役割を担っていく。

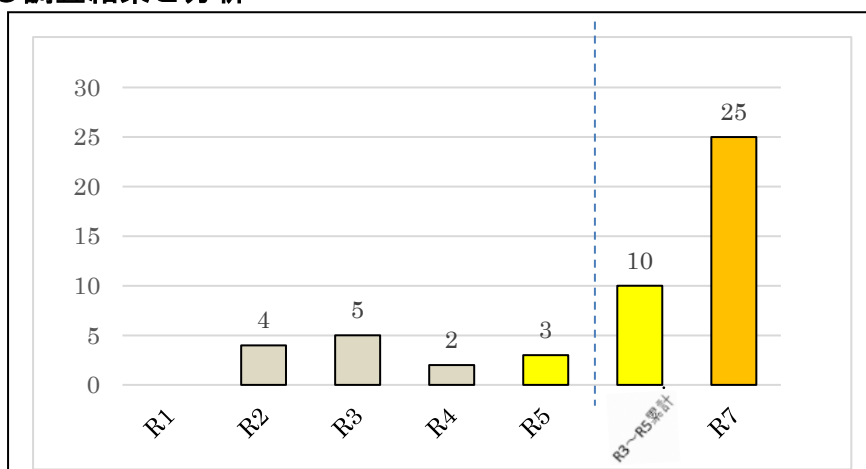
●目標達成の見通し及び今後の対策

歩行者・自転車等通行量については、主要事業は概ね順調に進捗しているが、都市計画道路鞆町成田線整備事業が実施中ということもあり事業の効果は十分に発現していない。

今後は、公共複合施設の利用者をまちなかに促していけるよう、ソフト事業を実施するとともに、各事業内容について工夫、見直しを行い連携しながら実績を伸ばしていきたい。

（３）「空き地・空き店舗解消数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 70～P. 73 参照

●調査結果と分析



年	(件)
R1	—
	(基準年値)
R2	4
R3	5
R4	2
R5	3
R7	25
	(目標値)

※調査方法：市内５商店街における空き地・空き店舗の数を毎年９～１１月のある１日を基準日と設定して計測する。

※調査月：令和５年１１月

※調査主体： 長井市

※調査対象： 市内5商店街



(単位：件)

	令和2年度 (計画前年度)	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)	令和6年度 (4年目)	令和7年度 (5年目)
本町商店街	2	2	1	1		
あらまち商店街	1	1	0	0		
駅前商店街	0	1	0	1		
大町商店街	1	0	0	1		
高野町商店街	0	1	1	0		
合計	4	5	2	3		

〈分析内容〉

令和5年度は、空き店舗を活用し開業したケースが1件、空き地が駐車場に整備されたケースが1件、空き店舗が住宅になったケースが1件であった。中心市街地活性化区域外も含め、創業の相談件数が徐々に増えており、空き店舗等の利用が期待できる。今後は遊びと学びの交流施設「くるんと」や各ソフト事業の効果により、新規出店や創業が促されると推察する。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 起業・創業支援事業（長井市）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	空き地や空き店舗を活用して起業を希望する個人又は法人等に対して、賃借料の一部や広告宣伝費等について支援する事業

国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：15件 最新値：4件（令和5年度2件） 本事業の令和5年度の活用件数は2件であった。2件とも中心市街地区域内で空き店舗を活用した創業であった。（調査時期の関係で1件分は次年度結果に反映。）
事業の今後について	今後も事業を継続して実施し、空き店舗等を活用した起業支援を行っていく。

②. 都市計画道路桐町成田線街路整備事業（山形県）

事業実施期間	平成23年度～令和5年度【済】
事業概要	都市計画道路桐町成田線における道路拡幅、歩道整備及び無電中化を行い、歩きたくなる歩行空間を形成するもの。
国の支援措置名及び支援期間	防災・安全交付金（道路事業（街路））（国土交通省）（令和3年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：3件 令和5年度末で事業は完了した。
事業の今後について	整備した街路をイベントで活用するなど、ソフト面での取り組みを検討していく。

③. 公共複合施設整備事業（長井市）

事業実施期間	令和2年度～令和5年度【済】
事業概要	多機能型図書館機能と子育て支援機能を併せ持つ複合施設を整備し、市民生活の向上や賑わいの創出を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（都市再生整備計画（長井駅前地区））（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：2件 令和5年8月のプレオープン、9月のグランドオープンし、市内の方はもちろん県内外の方からもご利用いただいている。施設全体の来館者数（R5.8.11～R6.3.31）は約25万人となった。
事業の今後について	当施設の利用者をまちなかに滞留させ、中心市街地での出店を促していく。

④. 市庁舎・長井駅移転事業（長井市）

事業実施期間	令和2年度～令和3年度【済】
事業概要	令和2年度完成の新庁舎と長井駅の合築した建物へ市役所を移転するもので、分散していた役所機能を集約し市民の利便性の向上や賑わい創出を図るもの。

国の支援措置名 及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新 値及び進捗状況	事業目標値：5件 令和3年3月竣工、5月6日開庁。役所機能を集約したことに加え、 駅と一体化したことにより利便性が向上した。また、市役所前を会 場とするイベントの実施により賑わいの創出に繋がっている。
事業の今後につ いて	市庁舎交流スペースを活用した取り組みを実施することで、来庁者 を増やし、駅周辺の回遊性を高めるための交流拠点のひとつとして の役割を担っていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しているが、各事業の効果は十分に発現していない。各事業者がく
るんと利用者と呼び込む取り組みをするとともに、官民連携して継続的な賑わいの創出を図り、
まちなかの魅力を高め、中心市街地への投資を促していきたい。